

## ルーヴルの青いカバ

Egyptian Hippopotamus Figurine The Original Owned by the Louvre



大きな目と、足の運びが愛らしいルリカ(2~3頁参照)にくらべると、こちらのカバは、ちょっと大人顔。ルーヴル美術館所蔵のファイアンス製のカバ像をモデルにしたミュージアムグッズです。鮮やかな青色の体に、ナイルの岸辺を思わせる植物などの文様が描かれており、古代エジプトの人々の青へのあこがれを思わせます。当館ミュージアムショップでお取り扱い中!

大 Large 長(L.) 19.5cm ¥12,285

小 Small 長(L.) 7.5cm ¥3,885

### 利用案内 Visitor Information

## 横浜ユーラシア文化館

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12  
Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

開館時間 9:30 a.m.~5:00 p.m.  
(入館は4:30 p.m.まで)  
※電力事情等により変更になることがあります。  
その際は当ウェブサイトでお知らせいたします。

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は次の平日)  
年末年始(12月29日~1月3日)他  
※2011年10月4日(火)~7日(金)と2012年1月11日(水)  
~13日(金)は、展示替えのため休館します。

入館料 一般200円、小・中学生100円  
※特別展・企画展開催中は料金が変わることが  
ございます。  
毎週土曜日は、小・中学生、高校生無料  
「障害者手帳」、横浜市の「濱ともカード」等をお持ちの  
方には、入館料免除の制度がありますのでお尋ね下さい。



12 Nihon Odori, Nakaku, Yokohama, Japan 231-0021  
Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

Hours 9:30 a.m.-5:00 p.m.  
(Admission until 4:30 p.m.)  
Closed Mondays and year-end/New Year's recess  
(December 29 to January 3)  
Closed: October 4-7, 2011 and January 11-13, 2012  
for change of exhibition.  
Admissions Adults: 200 yen  
Children: 100 yen

<http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>

アクセス  
みなとみらい線日本大通り駅3番出口すぐ  
JR関内駅南口・市営地下鉄関内駅1番出口  
から徒歩約10分

Zero min. walk from Nihon Odori Sta.  
on the Minato Mirai Line.  
10 min. walk from Kannai Sta.  
on the JR Line or Municipal Subway.



### 目次 Contents

#### 02 アートウォッチング Art Watching

カバ像  
Hippopotamus Figurine  
山花京子 Kyoko Yamahana

#### 04 ギャラリートーク Gallery Talk

特別展「古代エジプト 青の秘宝ファイアンス」  
Special Exhibition "Faience: treasures of ancient Egypt"  
竹田多麻子 Tamako Takeda  
Abstract by Yasuko Fukuhara

#### 06 蔵品紹介—常設展示室から— The YMEAC Collection: From the Permanent Exhibition

コプト裂  
Fragments of Coptic Textile  
福原庸子 Yasuko Fukuhara

#### 08 蔵品紹介—新収蔵資料— The YMEAC Collection: Recent Additions

#### 02 ミュージアムショップ Museum Shop

#### 02 利用案内 Visitor Information



# カバ像

Hippopotamus Figurine

ファヤンス  
エジプト 中王国時代 第12~13王朝時代 紀元前1976~1648年頃  
高7.2cm、幅13.2cm  
中近東文化センター附属博物館 所蔵番号M1405 愛称「ルリカ」  
Faience  
Egypt, Middle Kingdom, Dynasty 12-13 (ca.1976-1648 B.C.E)  
H. 7.2 cm, W. 13.2 cm  
The Middle Eastern Culture Center in Japan (M1405)

皆さんは古代エジプトの「ファヤンス」という言葉をお聞きになったことがありますか。古代エジプトの「ファヤンス」とは、「ガラスと陶器の中間物質」のことです。製法は現代では失われてしまっているため、などの多い不思議な素材です。

古代のファヤンスは、下の写真のように青緑色のものがほとんどです。古代エジプト人にとって、青色には特別な思いが寄せられていました。

このカバ像は、ファヤンスで大型の立体造形物が作られ始めた初期の頃のもです。写実的なカバの姿、ユーモラスな表情、そして青緑のカバの体表面に描かれたロータス(蓮)花や水草、水鳥、魚などの牧歌的な図柄から、このカバがあたりかナイル河の岸辺にゆったりと身を沈めているように見えます。



しかし、古代エジプト人にとって、カバは決して愛すべき存在ではありませんでした。特に子育て中の母カバは悍猛で、人間や他の動物が迂闊に水辺に近寄ろうものなら、突進してその丈夫な顎と牙で噛み殺してしまいます。古代エジプトの逸話の中には「カバに連れ去られた」という表現も見られるほどです。神話においても、カバは「混沌」の象徴とみなされ、神殿の壁面浮彫りには、神や神の化身としての王がカバを銛で突いている図像が多く残されています。

カバ像は、墓の中から発見されることが多く、死者の足元や背中、後ろなどに置かれていましたが、四肢が意図的に壊された状態で副葬されました。足元や背中、後ろに置かれたのは、死者がああ世の「混沌」を制することができるように、という祈願であらうといわれています。

また、カバの脚が意図的に折られるのは、墓の中で死者に仇を為さないようにという祈りがこめられているという説があります。死者が万全の態勢でああ世へ向かうことができるようにとの工夫だったのでしょう。

カバ像は、横浜ユーラシア文化館特別展「古代エジプト 青の秘宝ファヤンス」(2011年10月8日~2012年1月9日)に展示されます。  
This hippopotamus figurine is on display for the YMEAC special exhibition "Faience: treasures of ancient Egypt" (October 8, 2011 to January 9, 2012.)



## Ancient Egyptian

faience is a material, the category of which falls in between 'glass' and 'glazed pottery'. Lustrous blue-green color, which might be attributed to life-giving Nile, is the most popular color of ancient faience.

The hippopotamus figurine (MECCJ) is one of the oldest medium-sized figurines in faience. It dates to the latter part of Middle Kingdom, Dynasty 12-13 (ca.1976-1648 B.C.E.). Besides its realistic appearance, the depiction on its body surface is intriguing; lotus flowers, algae, birds and fish are painted in manganese black as if to represent the hippopotamus in marsh adjacent to the Nile.

Hippopotamus was much afraid in ancient Egypt because of its ferociousness especially during nursing periods. To the ancient Egyptians, it was a symbol of chaos, and scenes of spearing a hippopotamus (chaos) were popular motif in temple wall relief. The faience hippopotamus, on the other hand, was found from tombs, placed underside of the deceased's feet or under the deceased's back, with their legs intentionally broken. Such hippopotamus faience figurines might be included in funerary equipment as a symbol of chaos that the deceased must overcome in order to gain a new life in the netherworld.



# 特別展 「古代エジプト 青の秘宝ファイアンス」

Special Exhibition "Faience: treasures of ancient Egypt"



ウシャブティ(シャブティ) 末期王朝時代  
岡山市立オリエンタル美術館蔵  
Ushabti (Shabti), Late Period,  
Okayama Orient Museum



ウジャト眼護符  
中近東文化センター附属博物館  
Udjat eye amulet  
The Middle Eastern Culture Center  
in Japan (MECCJ)



青緑釉高浮彫文壺  
ローマ属領時代初期 前1~後1世紀 中近東文化センター附属博物館  
Blue-green globular jar,  
Early Roman Period, 1st century B.C.E. - 1st century C.E., MECCJ



ウシャブティ(シャブティ)  
新王国時代 第18~19王朝時代  
藤沢市教育委員会蔵  
Ushabti (Shabti),  
New Kingdom, 18th-19th Dynasty,  
Fujisawa City Board of Education



タイル 古王国時代 第3王朝時代 常滑市蔵・INAXライブミュージアム委託管理  
Tiles, Old Kingdom, 3rd Dynasty, Owned by Tokoname City and Kept by INAX MUSEUMS



祠堂形胸守り(ペクトラル)  
新王国時代 第19王朝時代  
大原美術館蔵  
Pectol, New Kingdom,  
19th Dynasty,  
Ohara Museum of Art

古代エジプトの展覧会でよく目にする、青い護符や容器、神像の数々。これらは、ファイアンスで作られています。かの有名なツタンカーメン王の黄金マスクの象嵌にも見ることができます。

本展では、ファイアンスの誕生から発展に至るまでの歴史をたどるほか、古代エジプト人がファイアンスに青を求めた理由をその死生観から読み解きます。

ファイアンスは、今では失われてしまった物質です。粘土でなくガラスの原料である石英という石の粒を用いた、ガラスのような焼き物で、古代エジプトでは、今から約6500年前に登場しました。主に埋葬や祭祀に関わる品々や建築装飾用のタイルなどに、紀元後2世紀頃まで用いられました。その特徴は、光り輝く「青色」。この色を求めて古代エジプト人は技術を磨き、人工物質であるファイアンスを作り続けました。

古代エジプトファイアンスの全貌が明らかになる、日本初の展覧会「古代エジプト 青の秘宝ファイアンス」。日本で所蔵される古代エジプト関連資料約150点を通して、歴史、文化、技術など様々な視点からファイアンスの魅力をお伝えします。また、INAXライブミュージアムのご協力により、今では幻となった古代の製法にも挑戦します。

The blue figurines, vessels, and amulets that globally attract visitors' attention at ancient Egyptian art exhibitions are made of faience, a material categorized between glass and glazed pottery. The superb Tutankhamen's gold mask is partially inlaid with blue faience.

Faience was used primarily for objects and architectural elements related to burial customs. This exhibition, tracing the history of ancient Egyptian faience from its appearance (ca. 4500 B.C.E.) to the declining years (ca. 2nd century C.E.), will give insight into the ancient Egyptians' concept of life and death and their pursuit of "blue."

Brought together for the first time for this exhibition are some 150 exquisite pieces of ancient Egyptian faience from Japanese museums. Furthermore, with the expertise of INAX MUSEUMS, the long-lost technique of faience making will be rediscovered for the visitors.

(Abstract by Yasuko Fukuhara)

特別展「古代エジプト 青の秘宝ファイアンス」  
2011年10月8日(土)~2012年1月9日(月・祝)  
入館料 一般500円、小中学生250円

Special Exhibition "Faience: treasures of ancient Egypt"  
Saturday, October 8, 2011 to Monday, January 9, 2012  
Admissions Adults: 500 yen, Children: 250 yen



# The YMEAC Collection

## From the Permanent Exhibition

### コプト裂

Fragments of Coptic Textile

エジプト  
綴織 (つづれおり)  
4~5世紀  
Egypt  
Textile  
4th-5th century C.E.

コプト織 (裂はその断片) は、コプト (エジプトのキリスト教) 美術を代表する工芸品です。古代エジプト美術とは異なる魅力があり、愛好家も少なくありません。

コプト教会は東方教会の一つです。エジプト人のあいだにキリスト教が広まったのは2世紀末頃からと考えられ、キリスト教文化を中心とする独特のコプト文化が生まれました。埋葬方法も古代エジプトとは異なり、死者は美しいコプト織の衣服や布で覆われて、墓地に埋葬されました。そのため、現存するコプト織の多くは墓地で発見されています。

このコプト裂は、円の中心に兎や獅子を配した文様部分だけを切り取ったものです。動物たちがいきいきと表現され、大きな目が印象的です。本来は衣服の袖口や裾などを装飾する連続文様の一部を成していたのでしょう。最もよく知られているコプト織の技法は綴織で、特徴は、経糸 (たていと) を覆い包むように2色の緯糸 (よこいと) で地と文様を織り分けることです。このように濃い紫の単色で主文様を表すのは初期の例です。

兎や獅子は特に好まれた動物文で、円で囲んだ動物文の例はコプト織ばかりでなく、広い地域で長期にわたって好まれました。ササン朝ペルシアから中国の隋・唐を経て日本にももたらされ、正倉院の絹織物の文様にも多く見られます。



Christianity began to spread among Egyptians towards the end of the 2nd century C.E. Egyptian Christians (Copts) created their own culture including the art of weaving. According to their burial custom, the deceased were buried in tombs, clad in daily clothes or wrapped in tapestries. Therefore, large quantities of Coptic textile fragments have been excavated from Egyptian cemetery sites.

Coptic textiles were woven with woolen wefts and linen warps. In early examples, motifs were mostly shown in single dark color, usually purple, against a lighter background. Favorite animals included the lion and the hare. Such medallions with animals placed in the center became a widely popular textile design which was transmitted eastward, reaching China and Japan.



# The YMEAC Collection

## Recent Additions (from April 2003 to March 2011)

横浜ユーラシア文化館は、東洋学者江上波夫（1906-2002）が長年の研究生活の中で収集した資料を核に、2003年3月に開館しました。開館後は、横浜市民のみならずを中心に、ユーラシアの諸文化に関する資料の寄贈・寄託を受け、少しずつ収蔵資料を充実させています。開館後新たに収蔵した資料については、企画展などで一部を公開してきましたが、紹介できていない資料も少なくありません。そこで本誌

に新収蔵資料紹介頁を設けることになりました。本号では、開館以降2011年3月までに収蔵された出版物を除く資料の概要を一覧にして掲載、次号からは、新収蔵資料を1～数点ずつご紹介していきます。出版物につきましては、登録が終わり次第インターネットで検索していただける形を採っています。当館の蔵書検索システムをご参考ください。蔵書検索システム → <http://eurasia.yokohama.opac.jp/>

※敬称略

収蔵番号 YMEAC 2004-0001

シリア採集の土器片（中期青銅器時代、鉄器時代他）

点数 6  
地域 シリア  
受入年度 2004  
受入方法 寄贈  
寄贈者 市川伸一  
Pottery fragments (Syria) donated by Shin'ichi Ichikawa



収蔵番号 YMEAC 2004-0002～0004

木棺部分（紀元前1050～400年ごろ）など

点数 3  
地域 エジプト  
受入年度 2004  
受入方法 寄贈  
寄贈者 岡 信孝  
Parts of wooden coffin (Egypt) donated by Nobutaka Oka



収蔵番号 YMEAC 2005-0001, 0002

拝火教文様大皿（清代）など

点数 2  
地域 中国ほか  
受入年度 2005  
受入方法 寄贈  
寄贈者 國定憲吾  
Pottery (China) donated by Kengo Kunisada



収蔵番号 YMEAC 2005-0003～0012

刺繍入りテーブルクロス（19～20世紀）など

点数 10  
地域 アルメニアほか  
受入年度 2005  
受入方法 寄贈  
寄贈者 浅井信雄  
Embroidered textiles (Armenia) donated by Nobuo Asai



収蔵番号 YMEAC 2006-0001, 0002

自鑪廳至烏斯蔵程站輿圖（清代末）複製

点数 2  
地域 中国  
受入年度 2006  
受入方法 製作  
Map of the Routes from Luting to Tibet (China) reproduced by YMEAC



収蔵番号 YMEAC 2007-0001～0003

ウズベキスタンの民族衣装（20世紀）

点数 3  
地域 ウズベキスタン  
受入年度 2007  
受入方法 寄贈  
寄贈者 水谷元啓  
Costume (Uzbekistan) donated by Yukihiro Mizutani



収蔵番号 YMEAC 2008-0001

龍の絵（20世紀）

点数 1  
地域 ブータン  
受入年度 2007  
受入方法 寄贈  
寄贈者 祖父川精治  
Painting of dragons (Bhutan) donated by Seiji Sofukawa



収蔵番号 YMEAC 2008-0002～0042

フィリピン等の民族資料（19～20世紀）など

点数 46  
地域 フィリピンほか  
受入年度 2008  
受入方法 寄贈  
寄贈者 青柳洋治  
Traditional artifacts (Philippines) donated by Yoji Aoyagi





収蔵番号 ———

### イスラーム ミニアチュール(細密画)

点数 53  
地域 トルコ  
受入年度 2008  
受入方法 寄託  
寄託者 武生ふたば子  
Islamic miniature (Turkey) entrusted by Futabako Takeo



収蔵番号 2009-0001~0017

### アフガニスタンの民族衣装(20世紀)など

点数 352  
地域 アフガニスタンほか  
受入年度 2009  
受入方法 寄贈  
寄贈者 小倉洋子  
Costume (Afghanistan) donated by Yoko Ogura



収蔵番号 YMEAC 2009-0018~0020

### ペルシアの織物(20世紀)など

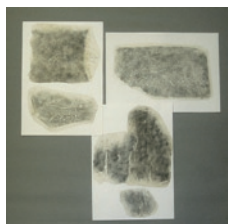
点数 3  
地域 イラン  
受入年度 2009  
受入方法 寄贈  
寄贈者 外山幸子  
Persian textiles (Iran) donated by Sachiko Toyama



収蔵番号 YMEAC 2009-0021, 0022

### 岩壁画等研究資料など

点数 42  
地域 シベリア  
受入年度 2009  
受入方法 寄贈  
寄贈者 前田 潮  
Rubblings taken from rock carving (Siberia) donated by Ushio Maeda



収蔵番号 YMEAC 2010-0001, 0002

### 剣(19~20世紀)

点数 2  
地域 トルコ  
受入年度 2010  
受入方法 寄贈  
寄贈者 森田 學  
Swords (Turkey) donated by Manabu Morita



収蔵番号 YMEAC 2010-0003~0009

### アフガニスタンの民族資料(20世紀)など

点数 8  
地域 アフガニスタンほか  
受入年度 2010  
受入方法 寄贈  
寄贈者 小倉洋子  
Pouches (Afghanistan) donated by Yoko Ogura



収蔵番号 YMEAC 2010-0010

### フィルムアルバム(1973年10~11月撮影)

点数 1  
地域 トルコ  
受入年度 2010  
受入方法 寄贈  
寄贈者 森田 學  
Photo-film album (Turkey) donated by Manabu Morita



トルコ建国50周年式典

収蔵番号 YMEAC 2010-0011

### オロンスム遺跡等採集陶磁片(元代)など

点数 26  
地域 中国内蒙古自治区  
受入年度 2010  
受入方法 寄贈  
寄贈者 東京 個人  
Ceramic fragments from Olon Sumo (Inner Mongolia) donated by Tokyo private collector



収蔵番号 YMEAC 2010-0012~0029

### ベトナムの陶器および古窯址調査写真(1990~1995年撮影)など

点数 349  
地域 ベトナムほか  
受入年度 2010  
受入方法 寄贈  
寄贈者 青柳洋治  
Photographs of old-kiln survey (Vietnam) donated by Yoji Aoyagi



ソンカーヴォ遺跡(1994年)

収蔵番号 YMEAC 2010-0030~0037

### トルコの写真、絵はがき(1970年代)など

点数 212  
地域 トルコ  
受入年度 2010  
受入方法 寄贈  
寄贈者 森田 學  
Photographs and postcards (Turkey) donated by Manabu Morita

